

# アクティブ・ラーニングを捉え直す

大学教育における新しい教育方法としてアクティブ・ラーニングが注目され、最近では、初等中等教育へも導入されようとしている。新たな時代のステージで、再び、教えから学びへの転換が掲げられるが、そのような転換は何を意味しているのだろうか。今回は、教育方法学の研究者である松下佳代氏(京都大学)をお招きし、いま、あらゆる教育段階で推進されようとしているアクティブ・ラーニングの政策的・実践的な課題と、その実質的な深まりを探究する可能性について考え合いたい。



日 時

2015年11月15日(日)

13:00~16:00(開場12:30)

会 場

北海道教育大学札幌駅前サテライト教室1

(札幌市中央区北5条西5丁目7番地sapporo55)

<http://www2.hokkyodai.ac.jp/satellite/sate-access.html>

\*ご来場は公共交通機関をご利用ください。

\*一般公開です。学会会員以外の方もご参加いただけます。

参加費無料

講 演

アクティブ・ラーニングを捉え直す

— ディープ・アクティブラーニングの提案 —

松下 佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

近著 『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房、2015。

『高校・大学から仕事へのトランジション—変容する能力・アイデンティティと教育』ナカニシヤ出版、2014。

『“新しい能力”は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010。

指定討論

教授学の視点から

大竹 政美(北海道大学大学院教育学研究院准教授)

教育方法学・教育実践論の視点から

前田 賢次(北海道教育大学札幌校准教授)

司 会

庄井 良信(北海道教育大学大学院教育学研究科教授)

\*日本教育学会ホームページの案内もご覧ください。